

ダイヤモンドエレクトリックホールディングス株式会社  
サステナビリティワラント

サステナビリティファイナンス適格性 アセスメント報告書  
DNV GL セカンドパーティ・オピニオン



2021年2月(Rev. 0)

DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

## 目次

報告書サマリー	3
I まえがき	4
II スcopeと目的	6
III ダイヤモンドエレクトリック HD 及び DNV GL の責任	8
IV DNV GL オピニオンの基礎	9
V 評価作業	10
VI 観察結果と DNV GL 意見	11
スケジュール-1 ダイヤモンドエレクトリック HD サステナビリティワラント サステナビリティプロジェクト候補	20
スケジュール-2 ダイヤモンドエレクトリック HD サステナビリティワラント 適格性評価手順	21
SF-1 調達資金の使途	21
SF-2 プロジェクト選定及び評価のプロセス	23
SF-3 調達資金の管理	24
SF-4 レポーティング	25

### 改訂履歴


改訂番号	発行日	主な変更内容
Rev. 0	2021年2月26日	初版

## 報告書サマリー

ダイヤモンドエレクトリックホールディングス株式会社(以下、「ダイヤモンドエレクトリック HD」、または「発行体」)は、1937 年設立されたダイヤモンド電機株式会社と 1925 年に設立された田淵電機株式会社を中核企業とした持株会社として、2019 年 10 月 1 日に東証一部上場しました。ダイヤモンドエレクトリック HD は、「自動車機器事業」、「電子機器事業」及び「エネルギーソリューション事業」を主要な事業セグメントとしています。

ダイヤモンドエレクトリック HD は、2020 年 9 月に更新をした中長期計画で、新たな経営ビジョンとして『車と家をものづくりでつなぐ』を掲げて事業活動を推進しています。その中で太陽光発電を主とした再生可能エネルギーの利活用をはじめとする CO<sub>2</sub> 排出削減を目指す持続可能な社会の実現に貢献する「ものづくり企業」として、環境及び社会貢献に資する DIAMOND & ZEBRA サステナビリティプロジェクト(以下、サステナビリティプロジェクト 下表参照)への資金充当を企図したサステナビリティワラントの実行にあたり、サステナビリティファイナンス・フレームワーク(以下、「フレームワーク」)を策定しました。ダイヤモンドエレクトリック HD はこのフレームワークに基づき、サステナビリティワラントを実行する予定です。

DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社(以下、DNV GL)は外部レビュー機関として、フレームワークの適格性を、グローバルで幅広く認知されているグリーンボンド原則(ICMA 2018 以下「GBP」)、ソーシャルボンド原則(ICMA 2020 以下「SBP」)並びにサステナビリティボンドガイドライン(ICMA 2018 以下「SBG」)の 4 要素を参照し、評価しました。下表にフレームワークに記載される、サステナビリティプロジェクトの概要を示します。

No.	サステナビリティプロジェクト分類		サステナビリティプロジェクト	SDGs への貢献
	グリーン	ソーシャル		
01	再生可能エネルギー (太陽光発電及び蓄電システム)	災害時における基本的インフラ設備 (電力エネルギーの蓄電システム及び受給電システム)	(1) 住宅向け次世代パワーコンディショナ及び蓄電システムの設計開発及び生産設備の増強等	7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9.産業と技術革新の基盤をつくろう 11.すみつけられるまちづくり 13.気候変動に具体的な対策を
			(2) 産業用三相パワーコンディショナ及び蓄電システムの設計開発及び生産設備の増強等	
02	クリーン輸送 (EV 等の受給電システム)		(1) V2H (Vehicle to Home) システムの開発及び生産設備の増強等	

GBP、SBP 等で示される 4 要素を参照した、DNV GL の評価結果概要は以下の通りです。

**要素 1.調達資金の使途**：発行体はサステナビリティワラントにより調達した資金全額を、適格性が評価されたサステナビリティプロジェクトへの新規投資又は同既存投資への支出として充当します。具体的には、再生可能エネルギー、クリーン輸送として分類される環境改善(CO<sub>2</sub> 削減効果)に直接又は間接的に貢献するプロジェクトです。また、サステナビリティプロジェクトは災害時における基本的インフラ設備(電力エネルギー)として分類され、付随的に社会的便益を兼ね備えた社会貢献プロジェクトです。いずれも、GBP や SBP 等で例示される、代表プロジェクトです。

**要素 2.プロジェクトの評価と選定のプロセス**：サステナビリティプロジェクトは、当該プロジェクト所管部門、技術管理本部及び財務部門により上述の基準及び関連するガイドライン等に合致し、また法令や自社グループ環境方針を遵守していることが確認・評価され、常務執行役員 CFO による選定の後、代表取締役社長により最終決定されます。

**要素 3.調達資金の管理**：サステナビリティワラント行使による調達資金は、個別の口座に入金され、関連事業部でプロジェクト毎に識別可能なコードが付与され管理されます。充当状況は、経理財務部において四半期ごとに確認され、未充当資金は現金及び現金同等物として管理されます。\*ワラント特有の資金管理については本文 VI (3)を参照ください。

**要素 4.レポート**：発行体は、サステナビリティワラント行使による資金調達後、調達資金の充当が完了するまで、以下の内容を実行可能な範囲で年次報告する予定です。1)資金充当状況、2)プロジェクトの進捗状況、及び 3)環境改善効果及び社会貢献。これらは上記基準等で求められるレポート項目を含んでいます。

DNV GL は、ダイヤモンドエレクトリック HD より提供された関連文書・情報から 4 つの核となる要素を参照した適格性評価手順の要求事項を満たしており、サステナビリティファイナンスの定義・目的である「環境及び社会への利益を伴う新規プロジェクトもしくは既存プロジェクトへの資本調達及び投資を可能にする」という点と一致していることを意見表明します。

## I まえがき

### -1- 発行体の概要

ダイヤモンドエレクトリックホールディングス株式会社(以下、「ダイヤモンドエレクトリック HD」、または「発行体」)は、1937年設立されたダイヤモンド電機株式会社と1925年に設立された田淵電機株式会社を中核企業とした持株会社として、2019年10月1日に東証一部上場しました。

ダイヤモンドエレクトリック HD は、「自動車機器事業」、「電子機器事業」及び「エネルギーソリューション事業」を主要な事業セグメントとし、コア技術に電力変換技術や電子機器制御の技術を有しています。

### -2- 発行体の環境・社会への取組みとサステナビリティワラント

ダイヤモンドエレクトリック HD グループは、「ものづくりを通じてお客様の発展に寄与し、信頼を積み重ね、社会の豊かに貢献する」という経営理念の基、エネルギーの利活用を効率化し、CO<sub>2</sub>排出の削減を目指す分野における技術開発への取り組みを推進しています。また、社会・環境活動への取組や環境方針を定め、経営理念と一体化した事業活動、製品開発を行い、循環型社会の実現に向けて取り組んでいます<sup>\*1</sup>。

2019年12月1日にはRE100に加入し、2050年までにグローバルで使用する電力を100%再生可能エネルギーに切り替えるとともに、CO<sub>2</sub>排出ゼロのものづくりを目指すなど、先駆的に環境への取組を推進しています<sup>\*2</sup>。

ダイヤモンドエレクトリック HD は、2020年9月に更新をした中長期計画「DSA2021 再点火反転攻勢版」<sup>\*3</sup>で、新たな経営ビジョンとして『車と家をものづくりでつなぐ』を掲げて事業活動の推進を掲げています。今回のサステナビリティワラントは、太陽光発電を主とした再生可能エネルギーの利活用をはじめとするCO<sub>2</sub>排出削減を目指す持続可能な社会の実現に貢献する「ものづくり企業」として、環境及び社会貢献に資するDIAMOND & ZEBRA サステナビリティプロジェクト(以下、サステナビリティプロジェクト)への資金充当を企図したサステナビリティファイナンス・フレームワーク(以下、「フレームワーク」)を策定しました。

ダイヤモンドエレクトリック HD はこのフレームワークに基づき、サステナビリティワラントを実行する予定です。

\*1:社会・環境活動、環境方針、ダイヤモンドエレクトリック HD ウェブサイト：<https://www.diaelec.co.jp> (CSR 情報)

\*2: RE100 への取組、同上：<https://www.diaelec-hd.co.jp/2020/12/01/>

\*3:中長期計画「DSA2021 再点火反転攻勢版、同上：<https://www.diaelec-hd.co.jp/2020/09/08/>

### -3- 発行体の SDGs 貢献への取組み

ダイヤモンドエレクトリック HD が実施するフレームワークに基づくサステナビリティプロジェクトは、再生可能エネルギーの利用拡大の促進、災害に対するレジリエンスを向上し、持続可能な産業化に寄与するものと考えられます。これらは、国連の定める持続可能な開発目標（以下、SDGs）のうち、下記の SDGs に直接的、間接的に貢献する取り組みです\*。





「7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに」 [7.2] [7.3]

「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」 [9.2] [9.4]

「11. 住み続けられるまちづくりを」 [11.b]

「13. 気候変動に具体的な対策を」 [13.1]

#### ダイヤモンドエレクトリック HD の SDGs 達成への貢献

SDGs		
目標 7	エネルギーをみんなに そしてクリーンに すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する	
目標 9	産業と技術革新の基盤をつくろう 強靱なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る	
目標 11	住み続けられるまちづくりを 都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする	
目標 13	気候変動に具体的な対策を 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる	

\* SDGs との関連性は、グリーンボンド原則を定める ICMA が公開している Green, Social and Sustainability Bonds: A High-Level Mapping to the Sustainable Development Goals を参照したものです。サステナビリティファイナンスに際して補完的なものであり、直接的に資金調達目的として関連付けるものではありません。

## II スコープと目的

ダイヤモンドエレクトリック HD は、サステナビリティワラントの実施に当たり、グリーンボンド原則(2018、ICMA 以下、GBP)、ソーシャルボンド原則(2020、ICMA 以下、GBP)、サステナビリティボンドガイドライン(2018、ICMA 以下、SBG)に共通して定められる 4 つの核となる要素を参照し、また関連するガイドライン等を参照して、フレームワークを制定しました。

サステナビリティワラントによる調達資金は、全額、下記の 01 及び 02 で示すサステナビリティプロジェクトに該当する新規又は既存の投資又は支出に充当することを計画しています。サステナビリティプロジェクトは、GBP、SBP 及び関連する基準で代表的なグリーン及びソーシャルプロジェクトとして分類されているものです。

### <グリーンプロジェクト分類>

プロジェクト 01	: 「再生可能エネルギー」
プロジェクト 02	: 「クリーン輸送」

### <ソーシャルプロジェクト分類>

プロジェクト 01 及び 02 共通	: 災害時における基本的インフラ設備
--------------------	--------------------

DNV GL は、外部レビュー機関として、GBP、SBP 及び関連する基準を参照し、また、サステナビリティワラント特有の調達資金の管理面を考慮した上で、適格性を評価しました。

ダイヤモンドエレクトリック HD は DNV GL にフレームワークの評価を委託しています。DNV GL におけるサステナビリティワラント評価の目的は、ダイヤモンドエレクトリック HD が、後述する基準である GBP、SBP 及び関連する基準を参照し、GBP、SBP 等で定められる 4 つの核となる要素の主要な要件に合致していることを確認するための評価を実施し、このフレームワークに基づくサステナビリティワラント適格性についてセカンドパーティ・オピニオンを提供することです。

DNV GL は独立した外部レビュー機関としてセカンドパーティ・オピニオンの提供に際し、ダイヤモンドエレクトリック HD とは事実及び認識においていかなる利害関係も持たないことを宣言します。

また、この報告書では、サステナビリティワラントにより実行されるプロジェクトの財務的なパフォーマンス、いかなる投資の価値、あるいは長期の環境便益に関する保証も提供されません。

### (1) レビューのスコープ

レビューは以下の項目を評価し、GBP の主要な 4 要素との整合性について確認されました

- |   |   |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の使途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの選定と評価のプロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポーティング           |

### (2) レビュー提供者の役割

- |   |                              |
|---|------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> コンサルタント・レビュー(セカンド・オピニオンを含む) | <input type="checkbox"/> 認証  |
| <input type="checkbox"/> 検証                                     | <input type="checkbox"/> 格付け |
| <input type="checkbox"/> その他:                                   |                              |

### (3) 適用される基準もしくはガイドライン

No.	基準もしくはガイドライン	発行者	適用レベル
1.	グリーンボンド原則 2018、GBP	国際資本市場協会 (ICMA)	参照*1
2.	ソーシャルボンド原則 2020、SBP	国際資本市場協会 (ICMA)	
3.	サステナビリティボンドガイドライン 2018、SBG	国際資本市場協会 (ICMA)	
4.	グリーンボンド及びソーシャルボンド：持続可能な開発目標(SDGs)に照らしたハイレベルマッピング 2018	国際資本市場協会 (ICMA)	
5.	インパクトレポーティング調和化に関する冊子	国際資本市場協会 (ICMA)	

\*1：参照；DNV GL 適格性評価手順に基づき、グローバルで幅広く認知された GBP、SBP 等で定められるの 4 つの核となる要素の主要な要件を参照し、適格性を評価しました。この際、ワラント特有の資金管理面、レポーティングに関する運用を考慮しました。



### Ⅲ ダイヤモンドエレクトリック HD 及び DNV GL の責任

ダイヤモンドエレクトリック HD は、DNV GL がレビューを実施する間に必要な情報やデータを提供しました。DNV GL のセカンドパーティ・オピニオンは、独立した意見を表明するものであり、我々に提供された情報を基に、確立された基準が満たされているかどうかについてダイヤモンドエレクトリック HD 及びサステナビリティワラントの利害関係者に情報提供することを意図しています。その業務において我々は、ダイヤモンドエレクトリック HD から提供された情報及び事実に依拠しています。DNV GL は、この意見表明の中で参照する選定された資産のいかなる側面に対しても責任がなく、また試算、観察結果、意見又は結論が不正確である場合、それに対し責任を問われることはありません。従って、DNV GL は、ダイヤモンドエレクトリック HD の関係者から提供されるこの評価の基礎として使用される情報やデータのいずれかが正確又は完全でなかった場合、責任を問われないものとします。



## IV DNV GL オピニオンの基礎

DNV GL は、発行体にとってより柔軟なサステナビリティワラント適格性評価を行うため、GBP、SBP 等の各種基準の要求事項を考慮したフレームワーク評価手順（以下、手順）を作成しました。この手順は GBP、SBP 等の 4 つの核となる要素を参照しています。

DNV GL の手順は、DNV GL の意見表明の根拠に資する一連の適切な基準を含んでいます。その基準の背景にある包括的な原則は、サステナビリティファイナンスが「環境及び社会便益をもたらす新規又は既存プロジェクトのための資本調達や投資を可能とする」べきである、というものです。

DNV GL の手順に従って、レビュー対象であるサステナビリティワラントに対する評価基準は、以下の 4 つの要素にグループ分けされます。

- **要素 1：調達資金の使途**：調達資金の使途の基準は、フレームワークを制定した発行体が適格性を認められたフレームワークに基づき実施されるサステナビリティワラントにより調達した資金を適格プロジェクトに使わなければならない、という要求事項によって定められています。適格プロジェクトは、明確な環境改善効果及び社会貢献を提供するものです。
- **要素 2：プロジェクトの評価及び選定のプロセス**：プロジェクトの評価及び選定の基準は、フレームワークを制定した発行体が、サステナビリティワラントにより調達した資金を使途とする投資の適格性を判断する際に従うプロセスの概要を示さなければならない、また、プロジェクトが目的に対する影響をどのように考慮しているかの概要を示さなければならない、という要求事項によって定められています。
- **要素 3：調達資金の管理**：調達資金の管理の基準は、グリーンエクイティ・オフリングにより調達した資金が、ワラント特有の管理方法に基づき、発行体組織によって追跡管理されなければならないこと、また、必要な場合には、区別されたポートフォリオを構築し、未充当資金（資金調達～プロジェクト充当までの期間）がどのように扱われるか公表するという観点で作成されなければならないことが、要求事項によって定められています。
- **要素 4：レポート**：レポートの基準は、サステナビリティワラントへの投資家に対して、少なくとも、資金の充当状況及び可能な場合には定量的もしくは定性的かつ適切なパフォーマンス指標を用いたサステナビリティレポート等を発行する、という推奨事項によって定められています。

## V 評価作業

DNV GL の評価作業は、発行体から誠実に情報提供されたという理解に基づき、利用可能な情報を用いた包括的なレビューで構成されています。DNV GL は、提供された情報の正確性をチェックするための監査やその他試験等を実施していません。DNV GL の意見を形成する評価作業には、以下が含まれます。

### 初回アセスメント[サステナビリティファイナンス初回アセスメント]

- この評価に資する上述及びスケジュール-2 に関し、サステナビリティワラントへの適用を目的とした発行体特有の評価手順の作成。
- この、サステナビリティワラントに関して発行体より提供された根拠文書の評価、及び包括的なデスクトップ調査による補足的評価。これらのチェックでは、最新のベストプラクティス及び標準方法論を参照します。
- 発行体との協議及び、関連する文書のレビュー。
- 基準の各要素に対する観察結果の文書作成。

### 定期(年次)アセスメント \*この報告書には含まれません

- サステナビリティワラント実行に関連した発行体により提供された根拠書類、上位レベルのデスクトップ調査、文書レビュー、及び発行体の主要担当者へのインタビューで補足された根拠書類、の評価。これらのチェックは、現在の評価ベストプラクティスと標準方法論を参照します。
- 発行体の管理者との協議、および関連文書管理のレビュー。
- 現地調査および検査（必要な場合）。
- 定期評価時点での、スケジュール-2 に記載された対象プロジェクト及び資産のレビュー。
- 本書で詳述されている、定期評価の観察結果の文書作成。

DNV GL の意見表明はこれらを要約したものです。

## VI 観察結果と DNV GL 意見

DNV GL の観察結果と意見は以下の通りです。

### (1) 調達資金の使途

DNV GL は、ダイヤモンドエレクトリック HD がサステナビリティワラントにおける調達資金\*の全てを GBP、SBP 等で示される以下の代表的な適格プロジェクトカテゴリに合致したサステナビリティプロジェクトに該当する新規又は既存の投資又は支出に充当する計画であることを確認しました。

これらのプロジェクト実行により、再生可能のエネルギーの有効な利活用が可能となり、電力エネルギーに由来する CO<sub>2</sub> 削減の環境改善効果が見込まれると共に、災害時においては、電力エネルギーの供給設備として機能することで社会貢献に繋がることが期待されます。

\*サステナビリティワラントは権利行使のタイミングにより、調達額(行使価額)が変動します。サステナビリティワラントの充当は、権利行使後より実施可能とし、。サステナビリティワラント調達資金の総額は、初回の権利行使後から最終の権利行使後までの各回調達額の合計と定義します。

#### <グリーンプロジェクト分類>

プロジェクト 01 : 「再生可能エネルギー」 (太陽光発電及び蓄電システム関連プロジェクト)

プロジェクト 02 : 「クリーン輸送」 (EV 等の受給電システム関連プロジェクト)

#### <ソーシャルプロジェクト分類>

プロジェクト 01 及び 02 共通 : 災害時における基本的インフラ設備

(電力エネルギーの蓄電システム及び受給電システム関連プロジェクト)



図-1 住宅向け次世代パワーコンディショナ及び蓄電システムの設計開発 イメージ

これらのサステナビリティプロジェクトは、再生可能エネルギーやクリーン輸送、それらをサポートする蓄電システムにより構成されている。これらは、第5次エネルギー基本計画(平成30年7月)<sup>\*1</sup>をはじめとする様々な国レベルの施策の中で多様な側面での利活用が期待されていることは明らかである。家庭用(住宅向け)、業務・産業用、そしてEVとの連携を可能にするパワーコンディショナや蓄電システム、V2Hシステムの開発及び生産を中心とした当該サステナビリティファイナンスで実行されるプロジェクトは、これらの施策を直接的、間接的に支援するものであると考えられる。

さらに、蓄電システムは再生可能エネルギーやクリーン輸送への取組みをサポートするだけでなく、災害時における地域のバックアップ電源として活用することが可能である。通常時は環境貢献に寄与しながら、災害時には地域社会社会へ貢献する、グリーンとソーシャルを兼ね備えたサステナビリティ型のプロジェクトであると考えられる。

\*1：経済産業省 資源エネルギー庁 第5次エネルギー基本計画

表-1 サステナビリティプロジェクト(詳細はスケジュール-1を参照)

No.	サステナビリティプロジェクト分類		サステナビリティプロジェクト	サステナビリティプロジェクト概要
	グリーン	ソーシャル		
01	再生可能エネルギー (太陽光発電及び蓄電システム関連プロジェクト)	災害時における基本的インフラ設備 (電力エネルギーの蓄電システム及び受給電システム関連プロジェクト)	(1) 住宅向け次世代パワーコンディショナ及び蓄電システムの設計開発及び生産設備の増強等	- 再生可能エネルギーの利用 - 多くの電源が系統に繋がる世界に向けた、高度な制御を備えた次世代パワーコンディショナと蓄電システムの開発とその生産設備の増強
			(2) 産業用三相パワーコンディショナ及び蓄電システムの設計開発及び生産設備の増強等	- 再生可能エネルギーの利活用 - 停電時に地域社会で使える出力と容量を備えたシステム開発 - 製品を生産するための生産設備・工場及び製品用倉庫の増築
02	クリーン輸送 (EV等の受給電システム関連プロジェクト)		(1) V2H (Vehicle to Home) システムの開発及び生産設備の増強等	- 再生可能エネルギーの利用 - 災害時バックアップとしてのインフラ用製品の開発 - 製品を生産するための生産設備の増強

### グリーンボンド原則(GBP)で分類される調達資金の用途

- |   |  |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 再生可能エネルギー   | <input type="checkbox"/> エネルギー効率                             |
| <input type="checkbox"/> 汚染防止及び抑制   | <input type="checkbox"/> 生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管               |
| <input type="checkbox"/> 陸上及び水生生物の多様性の保全  | <input checked="" type="checkbox"/> クリーン輸送                   |
| <input type="checkbox"/> 持続可能な水資源及び廃水管理   | <input type="checkbox"/> 気候変動への適応                            |
| <input type="checkbox"/> 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術及びプロセス   | <input type="checkbox"/> 地域、国または国際的に認知された標準や認証を受けたグリーンビルディング |
| <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載)  |  |
| <input type="checkbox"/> サステナビリティファイナンス発行時には未定であるが、現時点で GBP 分類または、GBP には記載されていない他の適格分野に適合することが予想される |  |

### ソーシャルボンド原則(SBP)で分類される調達資金の用途

- |  |  |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 手ごろな価格の基本的インフラ設備                       | <input type="checkbox"/> 必要不可欠なサービスへのアクセス              |
| <input type="checkbox"/> 手ごろな価格の住宅   | <input type="checkbox"/> 雇用創出 (中小企業向け資金供給及びマイクロファイナンス) |
| <input type="checkbox"/> 食糧の安全保障   | <input type="checkbox"/> 社会経済的向上とエンパワーメント              |
| <input type="checkbox"/> SBP 分類に適合すると考えられる、もしくは SBP には記載されていないが適格性のある領域である | <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載):                  |

## (2) プロジェクトの評価と選定プロセス

DNV GL は、レビューを通じて、スケジュール-1 に記載されサステナビリティプロジェクト候補が、発行体のグループ経営理念及び環境・社会への取り組み方針と合致していることを確認しました。

また、プロジェクトの評価と選定は、発行体の当該プロジェクト所管部門、技術管理本部及び財務部門により上述の基準及び関連するガイドライン等に合致していることが確認・評価され、常務執行役員 CFO による選定の後、代表取締役社長により最終決定されます。これらはダイヤモンドエレクトリック HD 社内で文書化されたプロセスとして確立されています。

プロジェクト自体は基本的に発行体の施設内における設計開発及び生産設備の増強等である。このため、プロジェクト実行に伴う追加的なネガティブな環境影響は、生産活動におけるエネルギー使用量増加(電力使用量増加等に伴う CO<sub>2</sub> 排出量等)が挙げられます。これに対し、発行体は、RE100 への加盟等を通じ、電力由来の CO<sub>2</sub> 削減に積極的に取り組んでいること、また、環境関連の法規制やグループ環境方針の順守の徹底、ISO14001(環境マネジメントシステム)への取組を通じ、環境影響に対し、適切な対処・緩和策を実施する計画であることから、環境及び社会影響リスクは少ないと判断した。

### 評価及び選定

- |  |   |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 発行体の環境貢献・社会目標の達成に合致していること            | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトが定義された適格カテゴリーに適合していることを示した文書化されたプロセスにより評価及び選定されていること      |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の用途として適格なプロジェクトであり、透明性が確保されていること | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト実行に伴う潜在的な ESG リスクを特定し、管理していることを文書化されたプロセスにより評価及び選定されていること |
| <input checked="" type="checkbox"/> 公表されている基準要旨に基づきプロジェクトの評価と選定が行われていること | <input type="checkbox"/> (具体的に記載):  |

### 責任に関する情報及び説明責任

- |   |  |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 外部機関による助言若しくは検証による評価/選定基準 | <input checked="" type="checkbox"/> 組織内部での評価 |
| <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載):                         |  |

### (3) 調達資金の管理

DNV GL は、ダイヤモンドエレクトリック HD がサステナビリティワラント発行後、権利行使若により資金を調達してから充当完了までの期間、どのように調達資金を追跡管理するかについて確認しました。DNV GL は発行体が調達資金を資金充当時期が到来したサステナビリティプロジェクトへ順次充当する計画であることを確認しました。

サステナビリティワラント調達総額は、初回の権利行使後から最終の権利行使後までの各回調達額の合計と定義します。調達総額は、最終の権利行使から 2 年以内にサステナビリティプロジェクトに充当する計画です。

調達資金は個別の口座に入金され、関連所管部でプロジェクトコードを付与し、プロジェクト毎に識別され資金充当状況の管理が実施される予定です。資金充当状況は、発行体の内部経理管理規程に基づき、財務経理部にて管理されることを確認しました。発行体は四半期毎に定期的に残高(権利行使後～充当までの期間にある調達資金の残高)をレビューする計画です。未充当資金は現金または現金同等物で管理される予定です。

なお、先述の通り、DNV GL はサステナビリティファイナンスの財務的なパフォーマンス、いかなる投資の価値、もしくは長期的な環境改善効果に関する保証も提供しません。

サステナビリティファイナンスのうち、新株予約権特有の資金調達に関する取扱いは、下記を参照ください。

#### <重要事項>ワラント(新株予約権)特有の資金調達に関する取扱い

新株予約権の行使による払込みの有無と権利行使の時期は本新株予約権者の判断に依存し、また本新株予約権の行使価額は修正又は調整される可能性があるため、現時点において調達できる資金の額及び時期は確定したのではなく、現時点において想定している調達資金の額及び支出予定時期に差異が発生する可能性があります。

現時点において想定している金額の資金を調達できなかった場合や支出予定時期との関係で不足が生じた場合には、当該時点の状況に鑑み別途必要な資金を手元資金又は金融機関からの借入等で充当される予定です。新株予約権の権利行使により調達した資金は、各資金使途のうち、支出時期が到来したのから、順次充当される予定です。

#### 調達資金の追跡管理:

- サステナビリティファイナンスにより調達された資金のうち充当を計画している一部若しくは全ての資金は、発行体により体系的に区別若しくは追跡管理される
- 未充当資金の一時的な投資の種類、予定が開示されている
- その他 (具体的に記載):

#### 追加的な開示情報:

- |   |  |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 新規投資のみに充当        | <input checked="" type="checkbox"/> 既存及び新規投資の両方に充当 |
| <input type="checkbox"/> 個別(プロジェクト)の支出に充当 | <input type="checkbox"/> ポートフォリオの支出に充当             |
| <input type="checkbox"/> 未充当資金のポートフォリオを開示 | <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載):              |



## (4) レポーティング

DNV GL は、GBP、SBP 等の基準やガイドラインで要求される特定の情報に関し、発行体のウェブサイトにて年次報告する予定であることを確認しました。年次報告は、資金充当が完了し生産設備が稼働を開始した翌年迄、開示する予定です。

これら開示情報には、各プロジェクト毎に、調達資金の充当と管理状況、対象プロジェクトと進捗状況、及び関連する定性的又は定量的な環境改善効果及び社会貢献についての記載が含まれます。環境及び社会改善効果は、守秘義務を考慮して開示する予定であることを確認しました。具体的には以下を予定しています。また、環境改善効果として開示される CO<sub>2</sub> 削減効果の算出方法は発行体内部で確立されており、DNV GL はアセスメントを通じその妥当性が確認しました。

### -1- 調達資金の充当と管理

- (1) 調達金額及び充当金額
- (2) 未充当金の残高
- (3) 調達資金のうちリファイナンスに充当された部分の概算額（または割合）

### -2- 対象プロジェクトの進捗状況

- (1) 調達資金を充当した適格プロジェクトの進捗状況(例：建設中の場合はその状況 稼働予定時期等)

### -3- 環境改善効果及び社会貢献

- (1) **プロジェクト-01(1)**：住宅向け次世代パワーコンディショナ及び蓄電システムの設計開発
  - ・対象となる生産設備の製品生産計画に基づく CO<sub>2</sub> 削減効果(t-CO<sub>2</sub>/年)及び蓄電容量(MWh)
- (2) **プロジェクト-01(2)**：産業用三相パワーコンディショナ及び蓄電システムの設計開発
  - ・対象となる生産設備の製品生産計画に基づく CO<sub>2</sub> 削減効果(t-CO<sub>2</sub>/年) 及び蓄電容量(MWh)
- (3) **プロジェクト-02(1)**：V2H (Vehicle to Home) システムの開発
  - ・対象となる生産設備の製品生産計画に基づく CO<sub>2</sub> 削減効果(t-CO<sub>2</sub>/年) 及び蓄電容量(MWh)

ダイヤモンドエレクトリック HD は、サステナビリティワラントが参照する基準に継続的に適合していることの確実性(整合性)、客観性を高めるために、第三者評価機関である DNV GL から、レポーティングが実施される期間、年次レビューを取得する予定です。ただし、資金充当状況や、プロジェクトの進捗状況等に応じて柔軟に年次レビュー取得要否を判断する予定です。

**資金充当状況に関する報告事項:**

- プロジェクト単位  プロジェクトポートフォリオ単位  
 関連する個々のサステナビリティファイナンス単位  その他(具体的に記載):

**報告される情報:**

- 資金充当額  投資総額のうちサステナビリティファイナンスにより充当された額割合  
 その他(具体的に記載): 報告時点で新株予約権実行による調達額

**頻度:**

- 毎年  半年ごと  
 その他(具体的に記載): 資金充当が完了し、生産設備が稼働を開始した翌年迄

**インパクトレポーティング:**

- プロジェクト単位  プロジェクトポートフォリオ単位  
 関連する個々のサステナビリティファイナンス単位  その他(具体的に記載)

**頻度:**

- 毎年  半年ごと  
 その他(具体的に記載): 資金充当が完了し、生産設備が稼働を開始した翌年迄

**報告される情報 (予測される効果、若しくは発行後) 環境貢献:**

- GHG 排出量/削減量 \*CO<sub>2</sub> 削減量  エネルギー削減量  
 その他の ESG 評価項目(具体的に記載):  
対象製品の生産計画や生産計画に基づく蓄電容量等の概要について、守秘義務を考慮して開示する

**報告される情報 (予測される効果、若しくは発行後) 社会貢献:**

- 受益者の数  受益者  
 その他の ESG 評価項目(具体的に記載):  
対象製品の生産計画や生産計画に基づく蓄電容量等の概要について、守秘義務を考慮して開示する

**開示方法**

- 財務報告書に記載  サステナビリティレポートに記載  
 臨時報告書に記載  その他(具体的に記載): ダイヤモンドエレクトリック HD ウェブサイト  
 レビュー済報告書に記載(この場合は、外部レビューの対象となった報告項目を具体的に記載)

## 評価結果

DNV GL は、ダイヤモンドエレクトリック HD から提供された情報に基づき、フレームワークがサステナビリティワラント評価手順（スケジュール-2）に定められた要求水準を満たしており、従って、GBP、SBP 等で定められる 4 つの核となる要素の主要な要件に合致していること、また、サステナビリティファイナンスの定義・目的である「環境及び社会への利益を伴う新規プロジェクトもしくは既存プロジェクトへの資本調達及び投資を可能にする」という点と一致していることを意見表明します。

DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社。

2021 年 2 月 26 日



マーク ロビンソン  
プロジェクトマネージャー  
DNV GL ビジネス・アシュアランス、オーストラリア



前田 直樹  
代表取締役社長  
DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社



金留 正人  
プロジェクトリーダー  
DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

**About DNV GL**

Driven by our purpose of safeguarding life, property and the environment, DNV GL enables organisations to advance the safety and sustainability of their business. Combining leading technical and operational expertise, risk methodology and in-depth industry knowledge, we empower our customers' decisions and actions with trust and confidence. We continuously invest in research and collaborative innovation to provide customers and society with operational and technological foresight.

With our origins stretching back to 1864, our reach today is global. Operating in more than 100 countries, our 16,000 professionals are dedicated to helping customers make the world safer, smarter and greener.

**Disclaimer**

Responsibilities of the Management of the Issuer and the Second-Party Opinion providers, DNV GL: The management of Issuer has provided the information and data used by DNV GL during the delivery of this review. Our statement represents an independent opinion and is intended to inform the Issuer management and other interested stakeholders in the Bond as to whether the established criteria have been met, based on the information provided to us. In our work we have relied on the information and the facts presented to us by the Issuer. DNV GL is not responsible for any aspect of the nominated assets referred to in this opinion and cannot be held liable if estimates, findings, opinions, or conclusions are incorrect. Thus, DNV GL shall not be held liable if any of the information or data provided by the Issuer's management and used as a basis for this assessment were not correct or complete

スケジュール-1 ダイヤモンドエレクトリック HD サステナビリティワラント サステナビリティプロジェクト候補

No.	サステナビリティプロジェクト分類		サステナビリティプロジェクト	サステナビリティプロジェクト (概要、所在、稼働計画、CO <sub>2</sub> 削減効果等)
	グリーン	ソーシャル		<所在：プロジェクト 01、02 共通> 設計開発：大阪市淀川区塚本(田淵電機株式会社) 生産：栃木県大田原市(田淵電子工業株式会社)
01	再生可能エネルギー (太陽光発電及び蓄電システム関連プロジェクト)	災害時における基本的インフラ設備 (電力エネルギーの蓄電システム及び受給電システム関連プロジェクト)	(1) 住宅向け次世代パワーコンディショナ及び蓄電システムの設計開発及び生産設備の増強等	<概要> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 再生可能エネルギーの利用</li> <li>- 多くの電源が系統に繋がる世界に向けた、高度な制御を備えた次世代パワーコンディショナと蓄電システムの開発とその生産設備の増強</li> </ul> <稼働計画、CO <sub>2</sub> 削減効果、蓄電容量 * 年間生産計画台数に基づく試算> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 2023 年度稼働予定、13,300-CO<sub>2</sub>/年、350MWh</li> </ul>
			(2) 産業用三相パワーコンディショナ及び蓄電システムの設計開発及び生産設備の増強等	<概要> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 再生可能エネルギーの利活用</li> <li>- 停電時に地域社会で使える出力と容量を備えたシステム開発</li> <li>- 製品を生産するための生産設備・工場及びび製品用倉庫の増築</li> </ul> <稼働計画、CO <sub>2</sub> 削減効果、蓄電容量 * 年間生産計画台数に基づく試算> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 2024 年度稼働予定、9,310t-CO<sub>2</sub>/年、365MWh</li> </ul>
02	クリーン輸送 (EV 等の受給電システム関連プロジェクト)		(1) V2H (Vehicle to Home) システムの開発及び生産設備の増強等	<概要> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 再生可能エネルギーの利用</li> <li>- 災害時バックアップとしてのインフラ用製品の開発</li> <li>- 製品を生産するための生産設備の増強</li> </ul> <稼働計画、CO <sub>2</sub> 削減効果、蓄電容量 * 年間生産計画台数に基づく試算> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 202 年度稼働予定、11,440t-CO<sub>2</sub>/年、160MWh</li> </ul>

## スケジュール-2 ダイヤモンドエレクトリック HD サステナビリティワラント 適格性評価手順

下記のチェックリスト(SF-1 ~ SF-4) は、サステナビリティファイナンス市場で幅広く認知されている GBP、SBP 等で定められる 4 つの核となる要素を参照し、ダイヤモンドエレクトリック HD サステナビリティワラント適格性評価用に作成された DNV GL 評価手順です。ここでの評価は便宜上サステナビリティファイナンスと DSA サステナビリティワラントを同等とみなしています。

### SF-1 調達資金の用途

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV GL観察結果
1a	ファイナンスの種類	サステナビリティファイナンスの種類は GBP で定義される以下の種類のいずれかに分類される。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・(標準的)サステナビリティファイナンス</li> <li>・サステナビリティレベニューファイナンス</li> <li>・サステナビリティプロジェクトファイナンス</li> <li>・その他</li> </ul>	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> <li>- フレームワーク</li> </ul> ダイヤエレクトリック HD 関係者との協議	DNVGLは、評価作業を通じファイナンスの種類(サステナビリティワラント)は以下のカテゴリに分類されることを確認した。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・その他</li> </ul> * ワラントの権利行使により調達した資金をフレームワークに基づき、環境及び社会貢献が明確にされたサステナビリティプロジェクトへの資金充当、プロジェクトの評価及び選定、調達資金の管理及びレポーティングについて、実施するものである
1b	サステナビリティプロジェクト分類	サステナビリティファイナンスにおいて肝要なのは、その調達資金がサステナビリティプロジェクトのために使われることであり、そのことは、サステナビリティファイナンス発行に係る法的書類に適切に記載されるべきである。	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> <li>- フレームワーク</li> <li>- 適時開示文書ドラフト</li> </ul> ダイヤエレクトリック HD 関係者との協議	DNV GL は、フレームワークの中で特定されたサステナビリティプロジェクト候補が GBP、SBP 等で分類される代表的な以下の適格カテゴリに該当することを確認した。これらは、適時開示文書の中で明記され、市場関係者に開示される  <b>環境貢献(グリーン)</b> -再生可能エネルギー(太陽光発電及び蓄電システム関連プロジェクト) -クリーン輸送(EV 等の受給電システム関連プロジェクト)  <b>社会貢献(ソーシャル)</b> -災害時の基本的インフラ設備 (電力エネルギーの蓄電システム及び受給電システム関連プロジェクト)
1c	環境及び社会面での便益	調達資金使途先となる全てのサステナビリティプロジェクトは明確な環境及び社会面での便益を有すべきであり、その効果は発行体に	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> <li>- フレームワーク</li> </ul> ダイヤエレクトリック HD 関係	DNV GL は、ダイヤモンドエレクトリック HD 適格サステナビリティプロジェクトの実行により環境面での便益として CO <sub>2</sub> 削減、社会面の便益として、災害時の電力供給に貢献することを確認した。便益は、製品やシステム運用時の条件に左右されるため、直接的に定量的な

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV GL観察結果
		よって評価され、可能な場合は、定量的に示されるべきである。	者との協議	<p>評価は困難であるが、生産する製品やシステムの仕様等から試算される環境及び社会改善効果が、発行体により評価されていることを確認した。なお、製品やシステムのスペックは秘匿情報を考慮した範囲に留めている。</p> <p>DNVGL はアセスメントを通じ、プロジェクト実行に関連する環境・社会影響リスク(主に生産での電力利用に伴う CO<sub>2</sub> 排出)は以下の観点で考慮されており、相対的に少ないと判断した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- RE100 への加盟</li> <li>- 環境関連法令、グループ環境方針の遵守</li> <li>- ISO14001(環境マネジメントシステム)への取組み</li> </ul>
1d	リファイナンスの割合	調達資金の全部あるいは一部がリファイナンスのために使われる場合、又はその可能性がある場合、発行体は、初期投資に使う分とリファイナンスに使う分の推定比率を示し、また、必要に応じて、どの投資又はプロジェクトがリファイナンスの対象になるかを明らかにすることが推奨される。	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- フレームワーク</li> </ul> <p>ダイヤエレクトリック HD 関係者との協議</p>	<p>DNV GL は、サステナビリティワラントによる調達資金がリファイナンスに使われる場合、ダイヤエレクトリック HD がウェブサイト上で開示する資金充当状況レポートで明らかにされることを確認した。レポートでの開示は、実務上可能な範囲において、対象となったプロジェクト、リファイナンス額若しくは比率を含める予定である。</p>



## SF-2 プロジェクト選定及び評価のプロセス

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV GL観察結果
2a	プロジェクト選定のプロセス	<p>サステナビリティファイナンスの発行体はサステナビリティファイナンス調達資金の用途となるプロジェクトの適格性を判断したプロセス概要を示すべきである。これは以下を含む(これに限定されるものではない)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発行体が、対象となるプロジェクトが適格なサステナビリティプロジェクトの事業区分に含まれると判断するプロセス</li> <li>サステナビリティファイナンス調達資金の用途となるプロジェクトの適格性についての規準作成</li> <li>環境面での持続可能性に係る目標</li> </ul>	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- フレームワーク</li> <li>ダイヤエレクトリックHD関係者との協議</li> </ul>	<p>DNV GL は、ダイヤモンドエレクトリック HD がフレームワークに基づき、サステナビリティプロジェクトの評価及び選定を行うことを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- プロジェクトの評価：当該プロジェクト所管部門、技術管理本部及び財務部門により GBP、SBP 及び関連する基準等に合致していることが確認・評価される。</li> <li>- プロジェクトの選定：常務執行役員 CFO により選定され、代表取締役社長により最終決定される。</li> </ul>
2b	発行体の環境及び社会的ガバナンスに関するフレームワーク	<p>サステナビリティファイナンスプロセスに関して発行体により公表される情報には、規準、認証に加え、サステナビリティファイナンス投資家は発行体のフレームワークや環境に関連する持続性に関するパフォーマンスの品質についても考慮している。</p>	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- フレームワーク</li> <li>- ダイヤエレクトリック HD ウェブサイト (CSR 方針)</li> <li>ダイヤエレクトリック HD 関係者との協議</li> </ul>	<p>DNV GL は文書及びインタビューを通じたアセスメントにより、ダイヤモンドエレクトリック HD が「社会・環境活動」「環境方針」を定めており、サステナビリティワラントにより実行されるプロジェクトがこれらの取組と合致していることを確認した。また、サステナビリティプロジェクトは SDGs にも関連付けられており、ダイヤモンドエレクトリック HD の事業活動の環境等に関連する持続性が考慮されている。</p>

## SF-3 調達資金の管理

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV GL観察結果
3a	調達資金の追跡管理-1	サステナビリティファイナンスによって調達される資金に係る手取金は、サブアカウントで管理され、サブ・ポートフォリオに組み入れ、又はその他の適切な方法により追跡されるべきである。また、サステナビリティプロジェクトに係る発行体の投融資業務に関連する正式な内部プロセスの中で、発行体によって証明されるべきである。	確認した文書類： - フレームワーク - ダイヤエレクトリック HD 資金管理フロ - ダイヤエレクトリック HD 関係者との協議	DNV GLは文書レビューとインタビューにより、調達した資金の全てはサステナビリティワラント権利行使後からプロジェクト充当までの間、サステナビリティ管理専用の口座に入金され、その後、内部手順に基づき、を用いて適格プロジェクトへ充当されることを確認した。
3b	調達資金の追跡管理-2	サステナビリティファイナンスの実行期間において、追跡されている調達資金の残高は、一定期間ごとに、当該期間中に実施された適格プロジェクトへの充当額と一致するよう、調整されるべきである。	確認した文書類： - フレームワーク - ダイヤエレクトリック HD 資金管理フロ - ダイヤエレクトリック HD 関係者との協議	DNV GLは文書レビューとインタビューにより、調達資金は発行体の関連所管部で付与されたプロジェクトコードに基づき支出され、財務経理部へ月次で報告されること、また、財務経理部で四半期ごとに充当額及び未充当残高の確認を行う予定であることを確認した
3c	一時的な運用方法	適格性のあるサステナビリティプロジェクトへの投資または支払いが未実施の場合は、発行体は、未充当資金の残高についても、想定される一時的な運用方法を投資家に知らせるべきである。	確認した文書類： - フレームワーク - ダイヤエレクトリック HD 資金管理フロ - ダイヤエレクトリックHD関係者との協議	DNV GLは、未充当資金は、現金または現金同等物で管理(運用)され、財務経理部により四半期ごとに確認されることを確認した。

## SF-4 レポーティング

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV GL観察結果
4a	定期レポートの実施	<p>調達資金の用途及び未充当資金の一時的な投資のレポートに加え、発行体はサステナビリティファイナンスで調達した資金が充当されているプロジェクトについて、少なくとも年に1回、以下を考慮した上で、各プロジェクトのリストを提供すべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 守秘義務や競争上の配慮</li> <li>- 各プロジェクトの概要、期待される持続可能な環境・社会的な効果</li> </ul>	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- フレームワーク</li> <li>- ダイヤエレクトリック HD 関係者との協議</li> </ul>	<p>DNV GL は、ダイヤモンドエレクトリック HD がサステナビリティファイナンスで要求される特定の項目（例：資金充当状況・プロジェクトの進捗・環境改善効果及び社会貢献）についてダイヤモンドエレクトリック HD のウェブサイトにて年次報告する予定であることを確認した。年次報告は、調達資金の全額が充当完了するまでの間(充当完了の翌年まで)、実施予定であることを確認した。レポーティングでは、守秘義務を考慮し実務上可能な限り、以下の最新情報が提供される予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-1- 調達資金の充当と管理 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 調達金額及び充当金額</li> <li>- 未充当金の残高</li> <li>- 調達資金のうちファイナンスに充当された部分の概算額(または割合)</li> </ul> </li> <li>-2- 対象プロジェクトと進捗状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 調達資金を充当した適格プロジェクトの進捗状況 (例：建設中の場合はその状況 稼働予定時期等)</li> </ul> </li> <li>-3- 環境改善効果及び社会貢献 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 対象となる生産設備の製品生産計画に基づく CO<sub>2</sub> 削減効果(t-CO<sub>2</sub>/年) 及び蓄電容量(kWh)</li> </ul> </li> </ul>